



【m-HANDS 2020 第5・6・7回の報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告

出雲家庭医療学センター大曲診療所 藤原和成

広島大学病院 総合内科・総合診療科 小林知貴

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

【m-HANDS-FDF】

(modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship)

6年間にわたって継続してきた中国ブロックの指導医養成コースです。今年度もオンライン開催となりました。8月から3月まで、月に1回全8回のコースとして実施しています。

今年度も、JPCA-MLなどで募集して中国地方の指導医3名が参加中です。3名にはチームとして様々な課題に取り組んでもらっています。

以下に第1回に参加してくれた指導医からの報告の一部を掲載します。

2022年度も引き続き開催を予定しています、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

〈目的〉

中国ブロックの指導医の養成とプログラム運営の質向上を通して、プライマリ・ケアの普及と発展をめざす

〈対象〉

- ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

〈アウトカム〉

Core Competence : Adult Educator (成人学習支援者)

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる

教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる

学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる 参加者と講師による学習共同体の形成を勧め、ブロック内の指導医ネットワークを作る

机上のプログラム作成だけでなく、各現場での仕組みづくりや教育チーム形成ができる

総合診療の魅力やプログラムの魅力を効果的に伝えられる発信力や求心力を発揮できる

ツールの活用や工夫などで独創的で質の高い遠隔教育ができる

第5回 オンライン開催 2021年12月25日(土)

【模擬ティーチング(初期研修医)】

2回目となる模擬ティーチングは、初期研修医を模擬学習者とし、技術領域の教育を行った。チーム内で事前打ち合わせを複数回行い、計画書に沿って教育目標を明確化し、評価方法などを協議した。技術領域が課題で

あったがオンライン形式となると、教育できる技術に限りがあり、どうしても認知領域に傾きやすい内容になってしまった。事前アンケートで学習者レベルを確認していたため、レベルごとにグループ分けすると学習者の満足度に繋がった可能性が高い。今後は医学アプリを技術領域に有効に使ったり、学習者の考えを中心に据えてディスカッションを進めていきたい。(吉田晶代)

#### 【学習者評価】

評価が学習効果に大きく影響を与えることが、自己の事前学習(これまで正当に評価されたと感じる経験・あるいは正当に評価されなかったと感じる経験)から、実感として感じる事が出来ました。こういった評価が良い評価になり得るかは状況によって変わり得るところではありますが、出来るだけ正当な評価になるように意識することは大切だと感じました。(大村大輔)

第6回 オンライン開催 2022年1月22日(土)

#### 【ビデオレビュー】

フェロー2名の研修医に対する振り返りを撮影しレビューを行いました。1例目は研修医にとっての初めての死亡事例後の振り返りでした。学習者にとっても精神的負担が強い場面であり学習者に寄り添い、感情描出を促し前向きな方向で振り返りをできていた所が印象的でした。2例目は医学的には入院適応ではないが家庭の都合で入院となった症例の振り返りで、研修医の社会的入院に対する葛藤の表出がありました。社会的入院の意義について議論を深めればさらに互いへの学びになるのではないかという意見が出ました。(高仁 佑)

#### 【カリキュラム評価】

普段教育業務に携わっていても、カリキュラム評価については関わったことがなかったので非常に興味深かったです。Framework for evaluation of public health programの評価カテゴリーなどは、読んでも良く理解できていなかったのですが実際にWSしてみて少しばかり理解できたところもあるかと思います。難しい概念が多く大変ではありましたが、一方で実践を通じて理解がより深まるのかなと感じましたので、今後カリキュラム評価に携わる際に今回のことを思い出しながら理論的に効果的な評価に結び付けられればと思います。(大村大輔)

#### 【評価計画の作成】

当日は用意されたシナリオに関して評価計画(課題の組み合わせと評価項目・要点で評価すべき能力を評価していることを示す仕様書)を作成した。評価には形成的評価と総括的評価があるが、最近のカリキュラムでは形成的評価が総括的評価をまかなって要るものも多くある。個々の評価方法を越えた妥当性を考え、評価ツールを正しく使う、評価全体としての妥当性を考える作業をした。

評価自体が実現可能かどうかの判断は非常に重要であり、コストパフォーマンスや時間・場所・マンパワーなどについても考慮しなければならない。今後は評価の12ステップに沿って評価計画を準備し、実現可能であるか、陥りやすい罠にかかっていないか確認しながら卒業課題を作成したい。(吉田晶代)

#### 【プロフェッショナリズムと態度教育】

このセッションでは最初に互いに今まで経験したプロフェッショナリズムとアンプロフェッショナルな事例を紹介しました。その後救急外来での事象を元とした架空のシナリオを通じてプロフェッショナリズムとは言語化するとどのようなものか、実践していくためにはどのようなことをしていく必要があるかを議論しました。問題が生じた後にいかに誠実に対応するかが大切であり、再発を防ぐために多くの周囲の目を入れる必要があるとの意見が出ました。態度領域の教育にも多職種の評価を入れるなど複眼的な視点の取り入れが必要なこと

を実感しました。(高仁 佑)

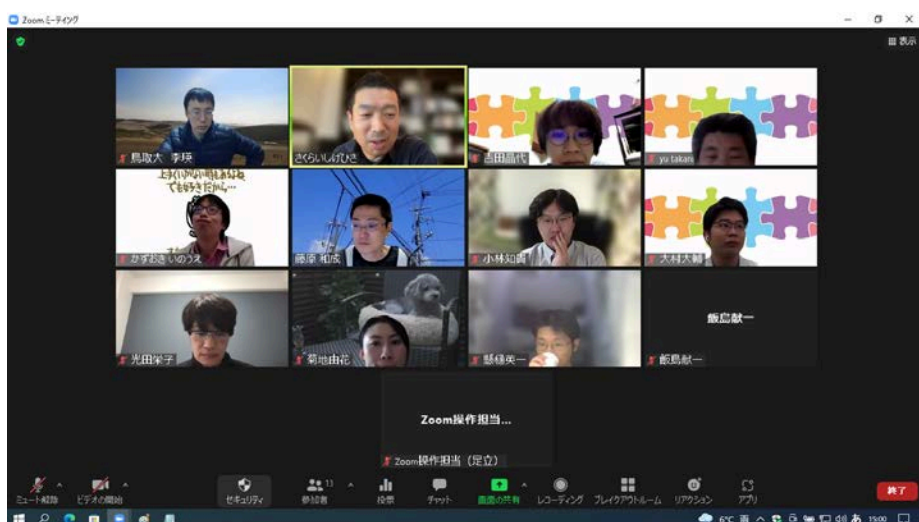
第7回 オンライン開催 2022年2月26日(土)

### 【模擬ティーチング(専攻医)】

テーマを広く設定した場合の評価や教育について、特に少し前まで専攻医だった身分からの教育ということもあり苦心しました。カリキュラム作成は面白いと同時に大変でもあり、今回いつものメンバー以外で家族図の教育セッションを作成するのもとても勉強になりました。形成評価と総括評価、理解度が進んだ印象があります。(大村大輔)

### 【最終課題発表】

このセッションではこれまでのm-HANDSで学んだ事をから実際の教育場面において実践するためのカリキュラム開発を行い、実行計画書を作成し内容についての発表を行いました。発表後は指導医側からのより良くするための意見や感想が出されました。意見としては個別目標をもっと学習者にとって具体的に理解できる内容にしたほうがいい。必須で参加ではないカリキュラムでは学習者に不必要に圧力を感じさせないように工夫する必要がある。収集したデータの保存管理を検討する必要があるなどがありました。今回の発表で出た意見を参考にカリキュラムをより実践に即したものにブラッシュアップしていきたいと思います。(高仁 佑)



### 【第1回 病院船推進会議 (Society5.0) のご案内】

2022年8月6日(土) 午前10時~午後4時

第1回 病院船推進会議 (Society5.0)

場所: 広島市中区本川町3丁目1番5号 ポートインク内

病院船推進機構 CEO 中村浩士

電話: 090-2239-3878

Mail: nahirosi0514@gmail.com

